

2022年度岩手大学環境目的、目標及び活動計画

IE1-6-1
最終改定日
2022.3.25

2022年度							
環境方針等	EA21 要求事項	環境目的	環境目標	活 動 計 画	行動の責任部署	監視測定 責任部署	
I,キャンパス環境 の改善		サステナブル キャンパスの構築 を図る。	エコアクション21を基本と した環境マネジメントシステ ムを運用する。	1.エコアクション21の大学等高等教育機 関向けガイドラインを基本として、岩手大 学環境マネジメントシステムを構築する。	EMS推進室	EMS推進室	
			キャンパス環境の改善を図 る。	2. オオハンゴンソウの防除を進める。	対象部局ユニット		
II エネルギーの使 用	二酸化炭素排出量 の削減	エネルギー使用及 びCO2排出量を 前年度比1%以上 の削減を図る。	エネルギー使用の削減を図る とともにエネルギー別に年間 使用量のベースラインの検討 を図る。	1. エネルギー別の使用内容の詳細につい ての調査を行う。	環境影響評価WG	EMS推進室	
				2. キャンパスカーボンニュートラルに向 けた取組みについて検討する。	EMS推進室	EMS推進室	
				3. 電気器具（照明・空調・PC・掃除機 等）について、定期的な清掃、交換を行う など、適正に管理する	全ユニット	EMS推進室	
				4. 公用車の更新にあたっては可能な限り 環境負荷が少ない自動車の選定を行う。削 減可能な公用車の削減を行う。	財務課・経理課	EMS推進室	
III, 資源の使用	用紙使用の削減	資源使用の削減を 図る。	部局別の用紙使用量を基に ベースラインを決定する。	1. EMS事務局がユニット別にコピー用 紙の購入量を算出し、前年度と比較する。	EMS推進室	EMS推進室	
				2. リース複合機の使用状況を確認し、前 年度と比較する。	全ユニット	EMS推進室	
				3. 過去5年間の部局別の用紙使用量を基 にベースラインを決定する。	環境影響評価WG	EMS推進室	
	水使用量の削減		部局別水道使用量を基にベ ースラインを検定する。	1. 過去5年間の部局別の水道使用量を基 にベースラインを決定する。	環境影響評価WG	EMS推進室	
				雨水利用について検討する。	2. 雨水利用の事例を収集する。	施設課 環境影響評価WG	EMS推進室
				化学物質使用量削 減	化学薬品の購入量を抑制す る。	1. 化学薬品の購入者に対して、必要最小 量の購入の呼びかけを行う。	安全衛生管理室
IV, グリーン購入			環境配慮型製品を優先的に購 入する。	1. 環境ラベル認定製品や省エネルギー基 準適合製品を優先的に購入する。	全ユニット	EMS推進室	
V, 廃棄物等の排 出	廃棄物排出量の削 減	廃棄物排出量の削 減を図る。	リサイクルの推進に向けた取 組みを行う。	1. ゴミ分別についての周知・分別調査を 継続し、結果を推進室会議で報告する。	EMS学生委員会 EMS推進室	EMS推進室	
				2. ごみ分別ポスターを全学で統一する。 また、3Rの強化を呼びかける。	廃棄物削減WG	EMS推進室	
				3. ゴミ分別を徹底するよう周知する。 (ペットボトルの蓋とラベルの分別の徹 底、水銀含有物を含んでいないかのチェ ックの徹底)	EMS学生委員会	EMS推進室	
				4. 不要な物品・什器類・備品の学内リ ユースに努め長期使用を進める。	EMS推進室 全ユニット	EMS推進室	
VI, 環境教育 環境人材教育	環境に関する教育 (環境人材の育 成)	大学における環境 教育・環境人材育 成を推進する。	環境教育・研修の推進を図 り、全学で「持続可能な共生 社会に寄与する環境人材育 成」を進める。	1. 図書館に化学薬品の取扱いや安全管理 に関する学生用図書をそろえる。	安全衛生管理室 図書館	EMS推進室	
				2. 環境に大きな影響を与える項目や原因 について構成員が自覚するための環境教育 計画・活動を検討する。	環境教育WG	EMS推進室	
				3. 環境マネジメント学生委員へ岩手大学 環境管理実務士に関する周知を行う。	EMS事務局	EMS推進室	
		附属学校における 環境学習の充実・ 発展を図る。	附属幼稚園では、花や野菜の 栽培等を通して、植物が育つ 環境について関心をもつ活動 を行う。	1. 花の栽培や野菜作りでの水やりや草取 りなどの世話をする。それらを通して、自 然の美しさ、豊かさ、不思議さなどに気づ いたり、生長する様子に関心をもったり、 命の大切さを感じたり収穫の喜びを味わ ったりする。	附属幼稚園	当該ユニット責任者	

2022年度

環境方針等	EA21 要求事項	環境目的	環境目標	活動計画	行動の責任部署	監視測定 責任部署
VI. 環境教育 環境人材教育	環境に関する教育 (環境人材の育成)	附属学校における 環境学習の充実・ 発展を図る。	附属小学校では、「総合的な 学習の時間」等を活用し、自然 観察や地球温暖化の学習など 環境について学ぶ場を創る。 また、委員会やたてわり 活動を通して、環境に配慮し た活動を行う。	1. 総合的な学習の時間では、自然環境や 地球温暖化等の学習を推進していく。例え ば、3年「わたしたちの中津川」の単元で は、中津川の自然を観察したり、水質調査 や街路樹調べを行ったりしながら、環境問 題について考える学習を行う。	附属小学校	当該ユニット責任者
				2. ボランティア委員会等の活動として、 学校周辺や地域のゴミ拾い、落ち葉拾い、 冬季の除雪作業などを行う。		当該ユニット責任者
				3. 2年生「小さな旅」、5年生「林間学 校」の学習の中で、自然環境の大切さや、 よりよい環境を維持するための取組を知 る。6年生理科「私の環境宣言」では、こ れまでの学びを生かして「環境に及ぼす影 響を少なくする取り組み」「環境を守るた めの取り組み」「地球の活動によって受け る影響を少なくする取り組み」の3点につ いて、新聞にまとめる学習を行う。		当該ユニット責任者
			附属中学校では、環境を守り はぐくむ心と感受性を育て、 環境美化活動、エネルギーの 節約等に配慮した生活・行動 を実践できるよう指導する	1. 授業において環境教育を取り入れる。 道徳や理科を中心に学び、心を育てる。	附属中学校	当該ユニット責任者
				2. 日常での清掃活動の見直し、及び節 電・節水を推進する。		当該ユニット責任者
				3. 生徒会活動による校地及びその周辺の 清掃・環境美化活動。		当該ユニット責任者
		4. ボランティア委員会による附属幼稚園 等の清掃・環境美化活動。		当該ユニット責任者		
		附属特別支援学校では、作業 学習等で使用する原材料のリ サイクル化を推し進めるとと もに、委員会活動や生徒会活 動における資源回収を通して 環境活動を実施する。	1. 廃油を活用した「リサイクル石けん」 や地域のりんご園等から提供された材料を 使った「クラフト製品」は、中学部の作業 学習で取り組む。	附属特別支援学校	当該ユニット責任者	
			2. 空き缶、古新聞等の「資源回収」は全 校に呼びかけ、中学部の委員会活動で取り 組む。		当該ユニット責任者	
			3. 高等部エコ委員会の活動で、ペットボ トルキャップ回収の呼び掛け、回収、洗浄 を行う。		当該ユニット責任者	
		学生の自主的な環 境保全活動を推進 する。	EMS学生委員会では環境活 動を積極的に実施する。	1. 盛岡市と協働し、市民向けの環境イ ベントを開催する。	EMS学生委員会	EMS推進室
VII. 環境関連研究	研究及び地域や社 会への還元	大学・大学院にお ける環境関連研究 を推進する。	各学部・研究科の特色を活か した環境関連研究を推進す る。	1. 高齢被災者による太陽光パネル市民共 同発電所の設置・運営と中小企業（団体） のエネルギーシフト・ウェンデ運動に基 づく持続可能な地域社会の形成要件・メカ ニズムを検討する。	人文社会科学部	EMS推進室
				2. 学部・研究科における環境関連研究を 推進する。	教育学部	EMS推進室
				3. ソフトパス理工学総合研究センター及 び学部・研究科における環境関連研究を推 進する。	理工学部	EMS推進室
				4. 農学部における環境関連研究を推進す る。	農学部	EMS推進室
VIII. 構内事業者の 取組		構内事業者の環境 配慮活動の推進を 図る。	放送大学岩手学習センターに おいて環境に配慮した取組を 実施する。	1. 放送大学学生に環境保全活動の啓発を 推進する。	放送大学岩手学習 センター	当該ユニット責任者
			プラスチックごみの削減に努 める。	1. 弁当リ・リパック容器の回収率を 2021年度比2%向上させる。	岩手大学生協	当該ユニット責任者
IX. 地域社会に対 する取組	社会貢献	三陸沿岸地域の環 境産業の振興を図 る。	持続可能な漁業に向けた取組 みを行う。	1. 三陸沿岸において海洋プラスチックご みに関する調査を行う。	釜石キャンパス	EMS推進室
X. 法規制順守		環境に関わる法規 制を遵守する。	自主運営に向けた環境関連法 規制遵守評価方法を検討する	1. 法規制評価WGで、これまでの遵守評 価状況を確認しつつ、自主運営に向けた環 境関連法規制遵守評価方法を検討する。	法規制WG	EMS推進室